



## 主の降誕（日中）（ヨハネ 1:1-18）

すべてに始まりを与えてくださる神

あらためて主の降誕おめでとうございます。夜半のミサ、日中のミサ、両方あずかったださっているのでしょうか。両方参加できる人は、どちらかだけ参加ではなく、両方参加してください。

「万物は言によって成った。」（1・3）ヨハネ福音書は、キリスト教が誕生して、ペトロやパウロがローマで殉教し、迫害が一層激しくなり、ユダヤ人が用いていた会堂からキリスト者が追放され、敵意の目で見られていた時代に書かれた書物です。その雰囲気の中で一つ一つの言葉が紡ぎ出されていることを意識して読み込むとより理解が進みます。

そのような時代の中でヨハネ福音記者が語った先の言葉は、神の言葉が万物に始まりを与えたという絶対の確信に満ちています。どの集会からも追い出され、日々命を狙われているその時に、「万物は言によって成った」と語ることは、どれだけ勇気のいることでしょうか。

それでも福音記者の確信は揺らぎませんでした。すべてのものが、神の言葉によって始まりを与えてもらっているというのです。そうであるなら、私たちもあらゆるものを眺める時、この出来事は、神の言葉によって始まったのだと考えるべきだと思います。

家族の形、教会家族の形、大切な人との出会い、旅立ちや別れも、出来事はすべて、神の言葉によって始まったのです。一日が無事に始まり、無事に終わりました。今日も、自分の務めを全うしました。どんなことも、始まりが神の言葉であるなら、私たちはもっと神に感謝する必要があるのではないのでしょうか。

今日の福音朗読は、ヨハネ福音の冒頭の箇所です。真っ先に、「万物は言によって成った」と述べて、福音記者の流儀で神に感謝を述べているのだと思います。どんな困難の中でも、始まりに神の言葉があったのだから恐れない。信頼は揺るがない。神は必ず手を差し伸べてくださる。私たちにそのように教えているのです。

特に教会生活は、神の言葉によって成り立っています。「父と子と聖霊のみ名によってあなたに洗礼を授けます」との言葉で私たちの神の子としての生活が始まりました。堅信の時には「父のたまものである聖霊の印を受けなさい」という言葉でした。最後の晩餐の言葉を唱えて、小さなパンが聖体となります。「わたしはあなたの罪を赦します」と宣言する時、実際に罪が赦されます。他にも、どの秘跡をとっても、神の言葉によって成り立っているのです。

私たちの身の回り、私たちの生活、あらゆるものが神の言葉によって始まりを与えられました。私たちがそう理解するだけで終わってははいけません。私たちが信じたこと理解したことを、幼子イエスに変わってだれかに語りかけなければなりません。今こそその時だと思います。